

株主メモ

決算期
定時株主総会
公告掲載方法

3月31日
6月
電子公告（ただし、電子公告による
ことができない事故その他のやむを
得ない事由が生じたときは、日本経
済新聞に掲載する方法により行う）

株式上場取引所

東京証券取引所市場第二部
（証券コード：3392）

株主名簿管理人

〒103-8670
東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

ホームページ

<http://www.delica.co.jp>



第3期 事業報告書

平成17年4月1日
平成18年3月31日



デリカフーズ株式会社

証券コード：3392

● デリカの志詩(うた) (大根の詩)

大根はデリカフーズです

大根は、
生よし、煮てよし、漬けてよし
葉よし、根よし、すべてよし

だから大根はデリカフーズです

デリカフーズは大根です

大根は野菜の代表です
中央アジア
千年以上も昔に中国を経由して日本に土着しました
春の七草 ~ すずな、すずしろ、せり、なすな、
ごきょう、はこべ、ほとけのざ ~

大根はすずしろ(清白)です
清らかな心が洗われる感じがします
白はどんな色にも染め上げることができます
お客様、仲間、誰れの意見も素直に謙虚に聞くことができます

だからデリカフーズは大根です

デリカフーズは大根役者です

大根の“しろ”と素人の“しろ”とから生まれた二流の役者です
主役を引き立てる脇役に徹し謙虚にひたすら努力する役者です
あるときは農夫として
あるときは科学者として
あるときは哲学者として
またあるときは詩人として
汗を流しつつ、夢を追い続ける**大根役者**です

CONTENTS

株主の皆様へ	1
事業報告	2
今後の経営戦略	4
連結財務ハイライト	7
連結財務諸表	8
連結貸借対照表／連結損益計算書／連結キャッシュ・フロー計算書／ 子会社・関係会社	
単体財務諸表	12
単体貸借対照表／単体損益計算書	
会社概要／株式情報	13
会社概要／株式状況／役員	

株主の皆様へ

株主の皆様におかれまして、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご支援並びにご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

超高齢化社会を迎える日本では、高齢者がいかに健康な生活をおくることができるかが、重要なポイントになってきます。生活習慣病や要介護者の増加により、医療費が増大し、国家財政を圧迫しているのが現状です。

この流れを止めるために、医学会では治療医学から予防医学へ、栄養学ではカロリー栄養学から分子栄養学へと変化しはじめています。最近、マスコミや新聞等で大きく取り上げられましたメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)は、脂質や糖の代謝異常など食生活や運動不足、ひいては遺伝などが原因で病気が発生しております。私たちの食生活は「飽食」と言われるように、カロリーは十分に足りていますが、一方でそれを代謝させるために必要なビタミン、ミネラル、酵素、補酵素、微量栄養素等が不足しています。食生活と生活習慣病の関係が分子栄養学の実現とともに解明されはじめています。

このビタミン、ミネラル、酵素、補酵素、微量栄養素こそが野菜の中に含まれており、特に旬の野菜の中に多く含まれていることが当社グループの研究の中でわかってきました。葉やサプリメントではなく、健康な土壌で生まれた健康な野菜をたくさん食べることが健康な体を作ることとなります。

そのために、当社グループでは、野菜を外見や形がそろっているという観点ではなく、野菜の中身を評価するべきと考え研究開発を行っております。野菜の持つ力(抗酸化力、免疫力、解毒力)を測定し、健康な野菜を生産し消費していただくことが、日本の農業の発展と国民の健康につながり、日本の食糧自給率を高める手立てだと確信しております。これを当社グループでは「野菜ルネッサンス®」と掲げて研究開発しております。人間は本来、生まれた土地で作られた食物(野菜)を食べ、身体が作られます。「食物は土から作られ、我々の身体になる。土と身体は同一のものである」というまさに「身土不二」の考え方です。日本人の体に必要な栄養素は日本の土に存在します。その健康な土地から出来た食物(野菜)を食べれば、日本人を健康にすることができます。その土地からできたものを食べて生活すること、すなわち「地産地消」を私たち日本人が実践すれば、食糧自給率を向上させることができるのではないかと考えます。そのためには生産効率重視によって失われつつある生態系を取り戻し農作物の生産力を上げる必要があります。

この企業理念に基づく、地球規模で考えた“食”を通じて健康と環境を創造し、農業の発展に貢献し、事業拡大に精進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

徳本 魚丸



事業報告

●当期の業績

企業集団の営業の経過および成果

外食産業におきまして、客単価は低下しているものの、客数の増加によって業績回復傾向にあるユーザーと、BSEによる米国牛輸入禁止措置の影響を受け依然として厳しい業績のユーザーに分かれております。このような状況下のもと、経費削減を目標に昨年からの工場の集約にとりかかったことが期初から寄与し、一部の工場ではジャスト・イン・タイム方式を取り入れるなど経営努力を行ってまいりました。売上におきましては、積極的な営業活動を展開したことにより厳しい状況下におきましても売上の大きな減少を避けることができました。平成17年12月は数十年ぶりの大雪の影響により生産地では青果物の収穫が激減し、さらに物流が寸断されたことにより当社グループ全体の諸経費は大きく増加いたしました。天候の変化への対応は過去の経験から十分に備えておりましたが、想定を超過、青果物業界に大打撃を与えました。当社グループは長年にわたる全国規模の生産者の育成と、信頼に基づいた取引をおこなうことにより、このような事態が発生しても業績への影響も最小限に止める仕組みを作っていました。そのため、今回も青果物業界全体が受けたほどの影響はありませんでした。平成18年1月以降に関しましては、当社が上場したことによる知名度のアップが、新規取引数を増加させ、また既存顧客に対しても信用度をあげることができましたので取引額は増加いたしました。

以上により、当連結会計年度の業績は、売上高19,462,363千円（前連結会計年度比率0.81%増）、経常利益は593,031千円（同13.87%増）、当期純利益363,031千円（同16.21%増）となりました。

〈部門別の業績説明〉

（カット野菜部門）

外食の顧客数が増え売上を拡大することができました。この結果、売上高は5,372,011千円（前連結会計年度比率1.44%増）となりました。

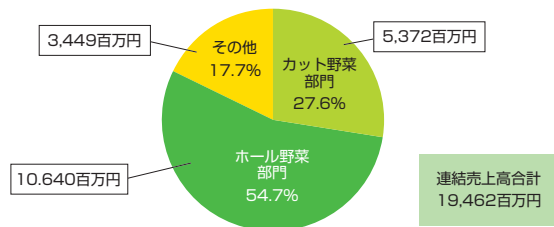
（ホール野菜部門）

12月の大雪の影響で業界全体の売上高は減少しましたが、当社営業努力により売上高は増加となり10,640,472千円（同1.39%増）となりました。

（その他部門）

日配品の売上は伸びましたが、東名阪以外の地域での委託販売が伸びず、売上高は3,449,879千円（同1.87%減）となりました。

部門別売上高（連結）構成比 平成18年3月期（通期）



〈企業集団の設備投資の状況〉

当期中において実施いたしました設備投資の総額は118,645千円で、その主な内容は、生産能力の向上および保守を目的とした設備投資（無形固定資産を含む）を継続的に実施いたしました。

なお、当社子会社である東京デリカフーズ(株)横浜工場統合に伴う工場閉鎖費用を22,927千円計上しております。

〈企業集団の資金調達の状況〉

株式上場に際し、平成17年12月の公募増資（新株発行数3,700株）により1,094,039千円の資金調達を行いました。なお、1株当たりの発行価額は、246,500円、引受価額は299,840円であります。

●今後の見通し

当社のグループは、【仕入先（生産者、荷受と仲卸）】－【当社グループ】－【販売先（お客様）】という三者一体の経営基盤を強固なものとし、あらゆるニーズに応じていく所存であります。卸売市場法、ポジティブリスト制、原産地表示、食品リサイクル法実施等は、当社グループにとりまして、追い風と捉え、顧客と生産者との信頼関係強化のもとに売上拡大に努めてまいります。また、工場やセンターでは、ジャスト・イン・タイム生産方式導入によるコスト削減や、社員の教育を行い企業価値を高めていく所存であります。

また、デザイナーフーズ株式会社の野菜評価基準を開発する研究が認められ、平成18年4月に経済産業省による新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の申請が通りました。野菜が潜在的に保有している健康への効果（機能性）を医学的に解明するための研究を、ゼブラフィッシュ（注）を用いて日本で初めて開始いたします。最終的には野菜の抗酸化力、免疫力、解毒力の評価を、非破壊で実施できる分析装置の完成を目指しております。

（注）マウス、ラットの次に注目すべき第三の実験動物として米国国立衛生研究所（NIH）が認定しており医学の世界ではヒト疾患を研究するためのモデル動物として注目が高まっています。



今後の経営戦略

更なる企業価値向上のために次のことを重点施策課題として取り組んでまいります。

- ① ホール野菜およびカット野菜のわかりやすい生産地の適正表示、トレーサビリティの実施、野菜の非破壊の中身評価（抗酸化力、免疫力、解毒力）実現のための基礎データ蓄積と分析の実施
- ② 当社グループと販売先（お客様）と仕入先（生産者、荷受と仲卸）との三者一体によりさらなる発展および展開と、卸売市場法改正に対する取り組み
- ③ 優良な外食産業との取引増大と中食産業への更なる販売力の強化
- ④ 需要の多い首都圏、東海圏、近畿圏の販売力の強化
- ⑤ カット野菜の更なる品質向上を目指し、ジャスト・イン・タイム生産方式を取り入れ、販売拡大ができる仕組みの構築
- ⑥ IT技術を活用し、青果物の在庫管理および発注システムの構築
- ⑦ 食品リサイクル法への対応はもとより、循環型リサイクルやエネルギー化に対する研究

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

生産者との取り組み（より新鮮なものを届けるために）



冷蔵トラックで産地直送



専用の通箱で納品



店舗で使いやすい商品設計とカット規格



コストを抑えた物流と原料商品規格

カット野菜の製造の様子



野菜の啓蒙活動（勉強会、メニュー提案、研究分析）

●野菜勉強会

野菜の生理に関する勉強会を開催、野菜の取扱方法、保存方法、洗浄方法等に関してレクチャー、メニュー提案、野菜の中身成分の研究発表、良い野菜の生産方法、摂取方法等についての啓蒙

健康野菜塾 会場風景



野菜の展示



野菜を使った料理の試食会



野菜についての勉強会



ホール野菜部門



選別工程



各店別仕分け工程

研究開発活動



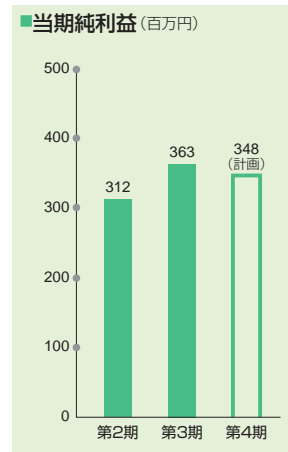
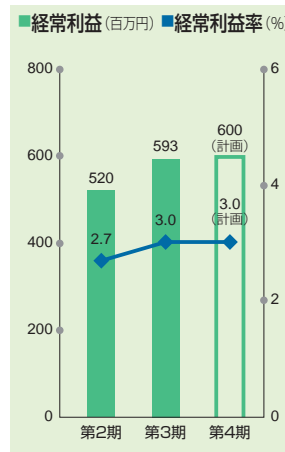
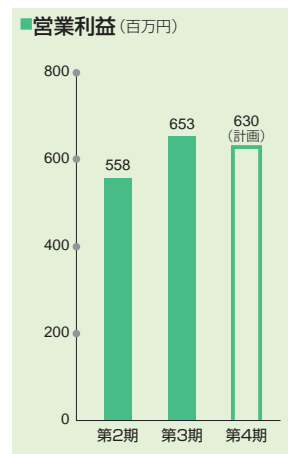
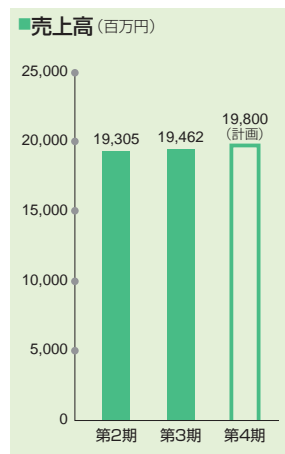
試験・開発・分析の様子

契約産地の様子



連結財務ハイライト

	第2期 (平成17年3月期)	第3期 (平成18年3月期)
売上高 (百万円)	19,305	19,462
営業利益 (百万円)	558	653
経常利益 (百万円)	520	593
当期純利益 (百万円)	312	363
総資産額 (百万円)	6,334	7,343
純資産額 (百万円)	1,701	3,158
自己資本比率 (%)	26.9	43.0



連結財務諸表

●連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	第2期 (平成17年3月31日)		第3期 (平成18年3月31日)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
(資産の部)				
流動資産	3,466,377	54.7	4,540,142	61.8
現金及び預金	1,451,921		2,427,400	
売掛金	1,900,405		1,995,334	
たな卸資産	59,939		65,753	
繰延税金資産	39,918		51,255	
その他	31,925		29,086	
貸倒引当金	△17,733		△28,688	
固定資産	2,867,907	45.3	2,803,504	38.2
有形固定資産	2,419,372	38.2	2,376,024	32.4
建物及び構築物	1,057,535		1,022,806	
機械装置及び運搬具	141,685		142,281	
土地	1,174,665		1,174,665	
その他	45,486		36,270	
無形固定資産	40,131	0.6	37,338	0.5
投資その他の資産	408,403	6.5	390,141	5.3
投資有価証券	104,428		108,124	
保険積立金	86,790		70,385	
繰延税金資産	29,105		34,004	
その他	197,586		215,076	
貸倒引当金	△9,507		△37,449	
資産合計	6,334,285	100.0	7,343,646	100.0

(単位：千円)

科 目	第2期 (平成17年3月31日)		第3期 (平成18年3月31日)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
(負債の部)				
流動負債	2,811,918	44.4	2,851,707	38.8
支払手形及び買掛金	1,123,718		1,207,163	
短期借入金	445,000		463,800	
一年以内返済予定の長期借入金	614,260		435,484	
未払法人税等	135,479		165,595	
未払金	302,620		431,974	
未払費用	106,030		62,921	
賞与引当金	46,300		51,694	
その他	38,509		33,074	
固定負債	1,820,463	28.7	1,332,977	18.2
社債	50,000		30,000	
長期借入金	1,681,133		1,223,129	
退職給付引当金	59,526		54,990	
その他	29,804		24,857	
負債合計	4,632,382	73.1	4,184,685	57.0
(少数株主持分)				
少数株主持分	—	—	—	—
(資本の部)				
資本金	303,730	4.8	759,755	10.3
資本剰余金	937,859	14.8	1,591,242	21.6
利益剰余金	450,060	7.1	797,021	10.9
その他有価証券評価差額金	10,368	0.2	11,188	0.2
自己株式	△117	△0.0	△246	△0.0
資本合計	1,701,902	26.9	3,158,961	43.0
負債、少数株主持分及び資本合計	6,334,285	100.0	7,343,646	100.0



●連結損益計算書（要旨）

（単位：千円）

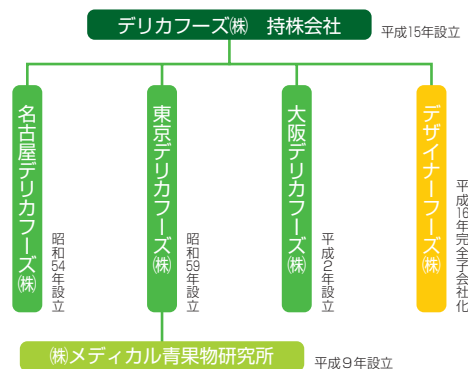
科 目	第2期 （自 平成16年 4月1日 至 平成17年 3月31日）		第3期 （自 平成17年 4月1日 至 平成18年 3月31日）	
		構成比 (%)		構成比 (%)
売上高	19,305,996	100.0	19,462,363	100.0
売上原価	14,835,461	76.8	14,744,641	75.8
売上総利益	4,470,534	23.2	4,717,722	24.2
販売費及び一般管理費	3,912,036	20.3	4,063,919	20.8
営業利益	558,498	2.9	653,802	3.4
営業外収益	21,270	0.1	16,967	0.0
営業外費用	59,003	0.3	77,738	0.4
経常利益	520,765	2.7	593,031	3.0
特別利益	59,654	0.3	55,968	0.3
特別損失	38,655	0.2	45,996	0.2
税金等調整前 当期純利益	541,764	2.8	603,003	3.1
法人税、住民税及び事業税	223,983		256,739	
法人税等調整額	5,390		△16,768	
当期純利益	312,390	1.6	363,031	1.9

●連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：千円）

科 目	第2期 （自 平成16年 4月1日 至 平成17年 3月31日）		第3期 （自 平成17年 4月1日 至 平成18年 3月31日）	
	I 営業活動によるキャッシュ・フロー	538,979		579,943
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,336		△40,592	
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△497,531		439,859	
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	—		—	
V 現金及び現金同等物の増加額	33,111		979,210	
VI 現金及び現金同等物の期首残高	799,841		832,952	
VII 現金及び現金同等物の期末残高	832,952		1,812,163	

当社グループの体制



●子会社・関係会社

名古屋デリカフーズ株式会社

設立 昭和54年10月
資本金 6,000万円
（出資比率）（100%）

東京デリカフーズ株式会社

設立 昭和59年12月
資本金 9,600万円
（出資比率）（100%）

大阪デリカフーズ株式会社

設立 平成2年5月
資本金 6,000万円
（出資比率）（100%）

株式会社メディカル青果物研究所

設立 平成9年9月
資本金 2,400万円
（出資比率）（100%）

デザイナーフーズ株式会社

設立 平成11年11月
資本金 2,000万円
（出資比率）（100%）



単体財務諸表

●単体貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科 目	第2期 (平成17年3月31日)		第3期 (平成18年3月31日)	
		構成比 (%)		構成比 (%)
(資産の部)				
流動資産	68,654	5.3	1,260,050	50.3
現金及び預金	60,064		1,249,833	
その他	8,589		10,216	
固定資産	1,238,627	94.7	1,243,606	49.7
有形固定資産	3,349		5,877	
無形固定資産	178		2,703	
投資その他の資産	1,235,100		1,235,026	
関係会社株式	1,234,025		1,234,025	
その他	1,075		1,001	
資産合計	1,307,281	100.0	2,503,657	100.0
(負債の部)				
流動負債	35,806	2.7	60,565	2.4
未払金	22,785		27,583	
賞与引当金	3,420		3,150	
その他	9,600		29,831	
固定負債	5,960	0.5	5,808	0.3
退職給付引当金	5,960		5,808	
負債合計	41,766	3.2	66,373	2.7
(資本の部)				
資本金	303,730	23.2	759,755	30.3
資本剰余金	937,859	71.8	1,591,242	63.5
利益剰余金	24,042	1.8	86,531	3.5
自己株式	△117	△0.0	△246	△0.0
資本合計	1,265,515	96.8	2,437,283	97.3
負債及び資本合計	1,307,281	100.0	2,503,657	100.0

●単体損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

科 目	第2期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)		第3期 (自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)	
		構成比 (%)		構成比 (%)
営業収益	179,442	100.0	318,360	100.0
営業費用	171,166	95.4	227,293	71.4
販売費及び一般管理費	171,166		227,293	
営業損益	8,276	4.6	91,066	28.6
営業外収益	20,112	11.2	43,474	13.7
営業外費用	-	-	30,475	9.6
経常利益	28,388	15.8	104,065	32.7
特別利益	-	-	1,622	0.5
特別損失	-	-	-	-
税引前当期純利益	28,388	15.8	105,688	33.2
法人税、住民税及び事業税	6,990		29,257	
法人税等調整額	△2,028		△2,128	
当期純利益	23,427	13.0	78,560	24.7
前期繰越利益	615		7,971	
当期末処分利益	24,042		86,531	

会社概要／株式情報 (平成18年3月31日現在)

●会社概要

商号	デリカフーズ株式会社
英文社名	DELICA FOODS CO., LTD.
設立	平成15年4月1日
資本金	759,755千円
従業員数	161名 (連結ベース)
本店所在地	〒121-0064 東京都足立区保木間二丁目29番15号
本社事務所	〒121-0064 東京都足立区保木間一丁目23番2号

●株式状況

発行済株式総数	15,605,92株
株主総数	1,850名

●役員 (平成18年6月29日現在)

代表取締役社長	舘 本 勲 武
常務取締役	鬼 頭 利 光
常務取締役	杉 和 也
取締役	澤 田 清 春
取締役	岡 本 高 宏
取締役	小笠原 真 清
取締役	岡 田 和 夫
常勤監査役	尾 谷 勝 美
監査役	山 口 隆
監査役	田 中 清 隆

